

平成29年11月17日

各都道府県カーリング協会会長 様

(公社) 日本カーリング協会

競技委員長 宮 越 武 志

2017 競技規則の改正及びブラシの使用制限等について（通知）

時下益々ご清祥のこととお慶び申し上げますとともに、日ごろよりカーリング競技の普及及び技術の向上、各種大会等の開催に多大なるご協力を賜わり心よりお礼申し上げます。

さて、標記につきまして、JCAが主催する選手権大会におけるスウィーピング使用するブラシの取り扱いについては下記のとおり取り扱うことといたしました。

また、本年改正されたWCF競技規則につきましては、別紙「2017.10 改正 WCF 競技規則の解説」のとおり、コーチの取り扱いにつきましても別紙のとおり取り扱うことといたしましたので、その旨貴下所属単位協会の他審判員等へ周知くださいますようお願いいたします。

記

☆ JCAが主催する全ての選手権大会において、WCF既定のスウィーピング用具の詳細規程で定められたブラシパッド以外は使用できないこととする。

使用できるパッドは「**Current Approved Product Codes**」によるものとする。

※禁止されているブラシであっても、毛ブラシなどカーリングの歴史などを鑑み、地域の大会では使用できる判断をされることを期待したい。

この件に関する問い合わせ先等

○ JCA競技委員長 宮 越 武 志

○ JCA副競技委員長 清 水 淳一郎・中 田 勇 司

○ 同上事務局 北 口 信 彦

2017.10 改正 WCF 競技規則の解説

(公社) 日本カーリング協会 競技委員会

2017.11.8

<R3. チーム>JCA 競技規則 10～13 ページ

(d) (i) …試合を離れたプレーヤーはエンドの開始時のみそのエンドその選手の2個のストーンが、チームが指定した投球順で投球される限り、いつ試合に戻ってもよい。

(下線部分を追加、二重取り消し線部分を削除)

改正前はいつ試合に戻っても良いとなっているが、エンドの開始時にのみ戻れることになる。

<R5. デリバリー>JCA 競技規則 14～17 ページ

(1) エンドの1投目を誤ったチームがデリバリーした場合

(i) 違反が1投目をデリバリーした直後に見つかった場合、エンドをやり直す。

(ii) 違反がそのエンドの2投目をデリバリーした後に見つかった場合、違反がなかったものとして試合を続行する。

(下線部分を追加)

新規に追加された項目である。

<R6. フリーガードゾーンルール>JCA 競技規則 17 ページ

(b) **(2018.10 より適用)** エンドの **6投目**をデリバリーする前に、…。

(下線部分を変更)

2018年10月より適用される。以下の点で改善がみられるとして導入されました。

(1) 両チームに公平な規則となる (2) オフェンシブさを高める (3) ブランクエンドの数が減る

(4) 不利な展開の際、盛り返す能力を高める (5) 試合が早く終わることを減らす

<R11. スコア>JCA 競技規則 25～27 ページ

(a) 予定エンドが終了したときの得点の多さで、あるいはどちらかのチームが負けを認めたとき、また算術的にどちらかのチームが勝てなくなったとき試合結果が決定する。算術的に勝てなくなったチームはそのエンドで試合を終了してもよいが、次のエンドを開始してはいけない。最終エンドで算術的に勝てなくなったチームはその時点で試合を終了し、エンドは最後までプレーされない。

(下線部分を追加)

スコアに関わらず最低限のエンド数はプレーするようあらためて明記された。最低限のエンド数がプレーされれば、算術的に勝てなくなったチームは進行中のエンドはプレーしてよいが次のエンドに入ってはいけない。試合のラストエンドで算術的に勝てなくなった場合は、その時点で試合を終了しエンドの最後までプレーされない。

<R13. 車いすカーリング>JCA 競技規則 28～29 ページ

(d) デリバリーは、通常通り手で投げても良いし、使用が認められたデリバリースティックで投げても良い。2017 年世界車いすカーリング選手権で使用を認められた先端部機材だけが、2018 パラリンピックを含む WCF の主催する 2017/2018 シーズンの車いすカーリング大会で使用を認められる。

(下線部分を追加)

次期パラリンピック期間に向けてデリバリースティックと先端部の構造に関する新たな規定について検討する方向です。

<C2. 参加チーム>JCA 競技規則 35～37 ページ

(j) チームは、4 人のプレーヤーがストーンをデリバリーして開始しなければならない。大会開始後、4 人のプレーヤーによって試合をはじめられるまで、チームは各試合を不戦敗となる。酌量すべき状況で、かつ大会長またはその代理、大会技術代表（競技委員長）、および大会の審判長の同意があれば、チームは 3 人のプレーヤーで試合をはじめることができる。必要な場合、チームは JCA 会長もしくはその代理人に対しアピールをしてもよい。

(下線部を追加)

昨年の改正ではアピール権がありませんでしたが、今回アピールができるように変更されました。

<C3. ユニフォーム・用具> J C A 競技規則 37～38 ページ

(a) (2018.10 より適用) WCF より別途承認を得ない限りは、ライトカラーのユニフォームは主に白又は黄色で構成されたものとする。それ以外の色を使用する場合の承認は、大会の少なくとも 8 週間前までに申請する必要がある。複数の大会での使用する場合はシーズンの最初に申請してもよい。

(下線部を追加)

<C5. 試合の長さ>JCA 競技規則 39 ページ

(a) 10 エンド予定されている大会では、ラウンドロビン~~とタイブレーク~~の試合では少なくとも 6 エンド、プレーオフの試合では少なくとも 8 エンドプレーしなければならない。

(二重取り消し線部分を削除)

タイブレークが削除されました。

<C6. 計時>JCA 競技規則 40～43 ページ

(j) (i) (j)項(ii)の場合を除き、エンドが終了した時点で 1 分間。ミックスダブルスの場合、選手が各エンド開始時に置き石を配置する場合は、30 秒がエンド間の時間に追加される。

(下線部を追加)

審判やボランティアが十分いない大会では、エンド開始時の置き石を選手が配置しなければならないことがある。エンド間の時間がそれに費やされてしまうことのないように改正されました。

<C8. ストーンの割り当て・LSD>JCA 競技規則 44～47 ページ

(d) (ii) チームが大会全体を 3 人の選手でプレーする場合、欠けている選手の最低投球回数の要件は他の選手間で公平に割り当てられる。

(d) (iii) チームが大会を 4 人の選手が揃った状態で開始し、その後何らかの理由で 1 人の選手が LSD の最低投球回数の要件を満たせなくなった場合、その満たせなくなった LSD の記録は最大値 199.6 cm とする。

(下線部を追加)

大会全体を 3 人でプレーする場合についての項目が追加されました。

<C9. 順位決めの手順・DSC>JCA 競技規則 47～50 ページ

(b) (iv) 上記の(i)-(iii)で順位が決定できないチームについては、ランキングはドローショットチャレンジ (DSC) を用いて決定する。DSC は、ラウンドロビン中にチームによってデリバリーされた全てのラストストロンドローの平均距離である。予選グループが 2 つ以上あり、各グループのチーム数が異なっている場合は、同じ方法で DSC の計算を行うことを保証するため、最初から数えて等しい数の試合での LSD が用いられる。

(下線部を追加)

注) 等しい数の試合までに最低投球回数の要件を満たさなければならない。

<C9. 順位決めの手順・DSC>JCA 競技規則 47～50 ページ

(c) プレーオフのポジションにチームが同率で残っているとき、~~最大一段階のタイブレークを行う。どのチームがプレーオフに進出するかを決定する。一段階を超えるタイブレークを要する場合、タイブレークが行われない場合には、~~追加試合を行うことなしにチームが敗退することもありうる。

(d) チャレンジできるポジションにチームが同率で残っているとき、~~最大一段階のタイブレークを行う。一段階を超えるタイブレークを要する場合、タイブレークが行われない場合には、~~追加試合で勝つことなしにチームがチャレンジできるポジションを回避することもありうる。

(e) 入れ替えのポジションにチームが同率で残っているとき、~~最大一段階のタイブレークを行う。一段階を超えるタイブレークを要する場合、タイブレークが行われない場合には、~~追加試合を行うことなしにチームが入れ替えのポジションを回避する、または位置付けられることもありうる。

~~(f) 1 回の試合で入れ替えとチャレンジできるポジションの両方を決定する場合がある。タイブレークのゲームの後でチャレンジできるポジションに複数のチームが同率で残っているとき、JCA の順位決めの手順に基づいてチャレンジされるチームを決定する。~~

(下線部を追加、二重取り消し線部分を削除)

タイプブレークに関する記述が削除されました。これに対応して巻末のタイプブレークチャートも削除されています。

<大会：競技方法>JCA 競技規則 52～ページ

予選リーグが1つで10チームを超える大会においては、6チームがノックアウトステージに進出する。上位2チームが準決勝から登場し、残りの4チームが準々決勝から戦い（3位 v s 6位、4位 v s 5位）勝者が準決勝に進む。

つまり準決勝は以下のようになる。

1位 v s 準々決勝を勝ったチームのうち下位チーム

2位 v s 準々決勝で勝ったチームのうち上位チーム

予選リーグが1つで10チームまたはそれ以下の大会においては、オリンピックの準決勝方式が用いられる。

世界カーリング選手権（13チーム）、世界車いすカーリング選手権（12チーム）では、6チームのノックアウトステージプレーオフが採用されます。

JCA 主催の主要大会の予選リーグは1つで10チームまたはそれ以下のチームで構成されており、WCF のルールに則るとオリンピック形式の準決勝方式となります。しかし 2017.9 の JCA 競技委員会にて、日本カーリング選手権および日本ジュニアカーリング選手権では従来通りページシステム（ただし3位決定戦なし）を用いることが決められました。

JCA主催選手権大会における チームコーチの資格基準

《2017年9月規定～JCA競技委員会～》

JCA主催の競技大会に参加するチームコーチの資格基準について以下のとおり定める。

①本基準の対象となる大会

- ・日本カーリング選手権大会
- ・日本ジュニアカーリング選手権大会
- ・日本ミックスダブルスカーリング選手権大会
- ・全国高等学校カーリング選手権大会
- ・以上のほかJCAが主催する、日本代表チームを決定する選考会及び選手権大会
※シニア大会及び大学生大会を除く

②コーチの資格基準

- ・コーチとして登録する者は「日本体育協会公認指導員」以上の資格を有する者でなければならない。
- ・海外コーチを登録する場合は、事前に競技委員長の確認を行う必要がある。

③大会時座席及びチームタイムアウト

- ・大会時は、コーチ席として最低2席、最大で3席（コーチ2名+リザーブ選手）を用意する。登録されていない者が当該コーチ席に着席することはできない（通訳はOK）。
- ・チームタイムアウト時はコーチ席に着席することが認められた者1名のみが接触できる（通訳はOK）。
- ・**コーチがいない場合でもリザーブは、選手と接触することができる。**